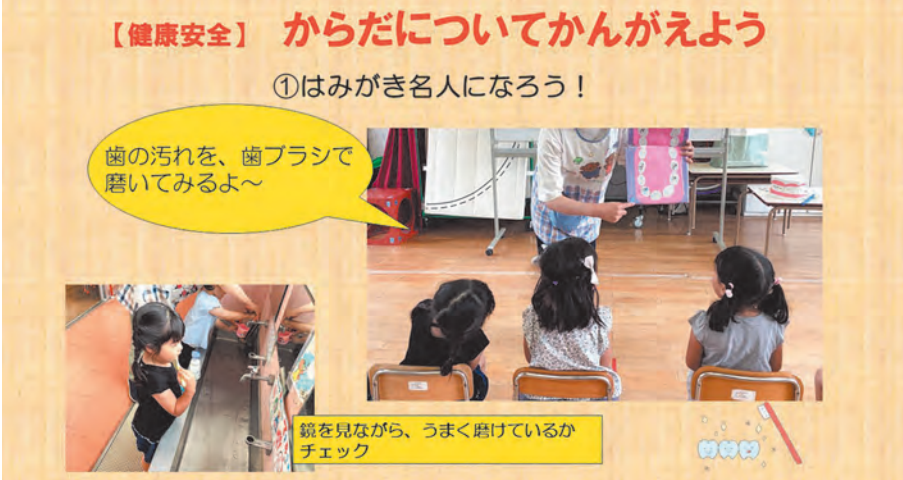


開催報告 三重県青少年赤十字報告会

開催日時 令和6年5月28日(火) 開催場所 三重県勤労者福祉会館

令和6年5月28日(火)、青少年赤十字活動報告会を開催しました。この報告会は、各加盟校が青少年赤十字の実践目標に沿って取り組んでいる活動を、校種を超えて互いに交流することで、より活発に青少年赤十字活動が展開されることを目的としています。当日は幼稚園、小学校、中学校、高校それぞれに各校で取り組む活動を紹介していただきました。

桑名市立陽和幼稚園 健康・安全 からだについてかんがえよう



陽和幼稚園では養護助教諭が月に数回来園し、子どもたちが自分の体のことや、健康に過ごすこと、食育、心のことなどをわかりやすく教えています。歯磨き指導では、イラストを使って「ミュータンス菌」について説明。虫歯を作る「バイ菌」として、「歯に穴をあけるボジラ」「歯に汚いスミを吐くミュータコス」「歯をツノでつづくバイキリン」と、子どもたちが楽しくなるような名前のバイ菌を考え、教えました。また食べた後、食べカスが歯のどこにつきやすいかを模型を使って説明し、歯磨きの大切さを学びました。

熊野市立新鹿小・中学校 奉仕 新鹿浜クリーンアップ作戦



新鹿観光協会と連携し、合同で新鹿浜の清掃活動を実施しました。当日は中学生がリーダーとなり、浜や駐車場、浜に続く道のゴミ拾いを行いました。また小学校1・2年生による「熊野市新鹿町通所サービスおおきに」への訪問では、利用者の方にインタビューと一緒に体操をするなどしてふれあいを楽しみました。その結果、今まで以上に高齢者とのかわりを意識するとともに、地域で出会った場面でも言葉を交わすようになりました。

役職名	名前	所属所名
役員名	森 昌彦	教育長代表 (津市教育長)
参 与	藤本 伸一	校長 松原市立飯南中学校
参 与	石井 孝史	校長 鈴鹿市立飯野小学校
参 与	松本 真人	県教委 社会教育文化財保護課長
参 与	山北 正也	県教委 高等学校教育課長
参 与	尾上 修一	県教委 小中学校教育課長
顧問	東谷 和久	三重県青少年赤十字賛助者仲間副委員長
顧問	庄山 昭子	三重県青少年赤十字賛助者仲間委員長
理事	込谷 徳隆	教諭 三重県立紀南高等学校
理事	丸山 藍	教諭 三重県立木本高等学校
理事	村瀬 卓也	指導教諭 津市立豊里中学校
理事	相賀 智	教諭 尾鷲市立尾鷲中学校
理事	伊達 智博	指導教諭 松坂市立徳和小学校
理事	角谷 美幸	津市立橋北中学校教頭
理事	敷地 哲也	校長 津市立東橋内中学校
理事	小柴 由香子	校長 津市立藤水幼稚園園長
理事	森本 敏子	杜の街ゆたか園園長
副会長	辻 孝明	校長 三重県立紀南高等学校
副会長	山下 隆久	校長 松阪市立徳野中学校
副会長	村木 俊一	校長 伊勢市立明倫小学校
会長	野口 和規	校長 津市立西橋内中学校

青少年赤十字

第35号

発行 日本赤十字社
発行 三重県支部
令和六年十月

志摩市立浜島小学校 健康・安全 防災タウンウォッチング・防災マップづくり



地域の防災教室や自治会のご協力を得て、小学校4年生の児童たちが防災タウンウォッチングを行い、防災マップを作成しました。タウンウォッチングではグループに分かれて行い、その結果を持ち帰り、防災マップづくりに取り組みました。作成した防災マップは、学校玄関前や公民館に掲示され地域の防災意識向上に役立っています。

三重県立白子高等学校 国際理解・親善 白子高校ボランティア部の活動



白子高校ボランティア部は、青少年赤十字の態度目標である「気づき」「考え」「実行する」を合言葉に、地域での奉仕活動をはじめ、さまざまな活動を積極的に行っています。近年はジャグリングを練習し、地域の施設等で披露することもあります。活動は生徒たちが主体的に行い、ニーズを捉え、生徒自らが企画・立案や調整を行い活動しています。令和5年度は海岸清掃や募金活動、福祉施設の訪問などを行いました。また国際交流に参加し、他校のメンバーや海外のメンバーとも交流し、多くの学びを得ることができました。



令和6年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター

タベのつどい

指導者のサポートを受けることなく、各グループが生徒たちの力だけでガスや電気を使わずにカレーづくりを行いました。力を合わせて完成したカレーは格別な味に！



高校生

令和6年7月29日(月)～31日(水)

研修「救急法」

三角巾を使って怪我人の処置を体験。身体のだまざまな箇所を三角巾で手当てし、いざというときに役立つ知識を身に付けました。



5校・33名の生徒たちが参加し、三重県立熊野少年自然の家を中心に開催された高校生トレセン。初めて顔を合わせる生徒同士が多い中で、最初は緊張気味の生徒の姿も見られましたが、研修やグループでの活動を通じて皆が活発に意見を交わし合うように。

2日目の「タベのつどい」では、地震でガスや電気が止まってしまったという状況で、各グループの生徒たちが話し合って食材を準備したり、ご飯を炊いたり、火を起きたりと、役割分担をしてカレーづくりに挑戦。不慣れた作業を仲間同士で協力し、助け合いながら、一つのことをやり遂げ、充実感を味わえる時間になりました。



研修「防災・減災」

災害の発生時にどのような行動を取ればいいのか、予測し、仮説を立てて備える「先見」の大切さを学びました。



グループでの話し合い。積極的な意見を交わしました。

充実感を得られた3日間でした！



「暗黒の間」の関所では、災害時に視界や足場が悪い状況を体験

研修「フィールドワーク」

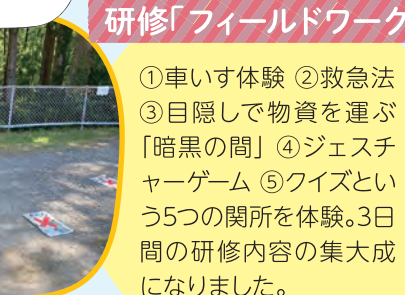
①車いす体験 ②救急法 ③目隠しで物資を運ぶ「暗黒の間」④ジェスチャーゲーム ⑤クイズという5つの関所を体験。3日間の研修内容の集大成になりました。

研修「国際理解・親善」

カードを使った「買い物ゲーム」は、栄養問題に苦しんでいる人々にどのような支援が効果的かを学ぶ機会に。



ゲームを楽しみ、結果を振り返りながら、理解を深めていきます



VS・HR

※VS (ボランティアサービス) ※HR (ホームルーム)

グループに分かれてのさまざまな活動を通じて、初めて顔を合わせた者同士とは思えないほど交流が深まります。



閉会式



新旧リーダーの引き継ぎも行なわれました。

参加者の声

「最初は緊張と不安でなかなか話を前に進められなかったけれど、周りの人に話しかけたり、感謝を伝えるといった“声かけ”をすることで、個人個人の間にあった壁を少しずつ取り払うことができました」

「今までは自分にとって“指示に従うこと”が基本だと思っていたけれど、トレセンで自分の行動を見つめ直す機会が得られて、これからは自分で動いてみようと思うことができました」

「研修やカレーづくり、フィールドワークなど、自分たちで考え、動いていくうちにチームの団結力が上がっていったように思います。遠慮し過ぎずにコミュニケーションをたくさん取ることが大切なんだと感じました」

参加校 久居農林高校・白子高校・高田高校・紀南高校・木本高校

編集後記

第35号は、三重県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(トレセン)の記事を中心にまとめた。トレセンは、昨年度同様2泊3日で実施しました。高校生33名、中学生23名、小学生は参加者が少なく残念ながら中止になりました。参加いただいた学校のご協力に、心より感謝申し上げます。トレセンに参加された生徒の皆さん、すばらしい成長ぶりを見ると、その意義深さを実感します。しかしながら、コロナ前とは学校を取り巻く状況が著しく変化しています。全国的にもトレセンを1泊2日や日帰りで実施している支部も出てきています。三重県支部としては、80年近く及ぶトレセンの歴史とリーダー養成のノウハウを最大限に生かせる2泊3日の開催を、県・市教育委員会、校長会等の協力をいただきできるかぎり実施していきたいと考えています。その上で、教員の動き方や教育内容の進化等を考慮し、今後の在り方を常に模索しながら、先生方が安心してトレセンに参加していただけるよう、できる限りのバックアップをしながら推進していきたいと考えています。

JRC態度目標

気づき
考え
実行する

令和6年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター 中学生

三重県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)を津市青少年赤十字野外活動センターにて2泊3日で開催しました。
参加してくれた各校の中学生たちの熱心な活動の様子をご紹介します。

JRC実践目標

健康・安全
奉仕
国際理解・親善

スタンツ

各グループが研修で学んだ内容を劇形式で発表する「スタンツ」。それぞれにアイデアと工夫を凝らした内容の劇を演じてくれました。

劇で使用する大がかりな道具の製作に取り組んだり、クイズを交えて劇の演出に凝ったりと、皆がアイデアを出し合って準備を進めました。

HR(スタンツ準備)

グループごとに「スタンツ」で発表する劇を練習。台本をしっかりと練り上げたり、リハーサルを重ねるなど、熱心に準備を重ねて本番に臨みました。

研修「フィールドワーク」

研修で学んだ知識・技術の総まとめの位置づけとなる最終日のフィールドワーク。各グループともに目一杯活動を楽しみました。

一人ひとりが自分の役割を果たしながら、研修の成果を披露しました

新たな経験を通じて成長を得られた3日間に!

桃太郎を題材にした劇を演じる「パフォーマンスの国」や、救命処置や三角巾による手当てを実践する「救急法の国」、目の見えない状態で活動する「無音・暗黒の国」、クイズ形式で知識を問う「RC・JRCの国」。4ヶ所を舞台にグループで力を合わせて課題をクリアしていきました。

研修「救急法」

三角巾を使った怪我の手当てやAEDを使った救急処置に興味津々。皆が積極的に取り組みました。

心肺蘇生法の研修を学んだ生徒たちからは、もしそういう場面に遭遇したときに、今回学んだ知識を生かしていきたいという声が聞かれました。

タペのつどい

生徒が自分たちでクリエイションの内容を考え、参加者全員が楽しめる企画を実施しました。

朝の集い

研修「非常食実習」

避難所生活の際に、ハイズックス袋を使用して非常食をつくりまします。今回は、カレーライスにして、いただきました。

研修「良いリーダーとは」

集団の中でリーダーが果たすべき役割、リーダーのあるべき姿について理解を深めました。

閉会式

研修を終えた生徒たちに修了証を授与。トレセンでの経験を今後の生活に生かしていきます。

村長選

リーダー役の「村長」と助役(副村長)を決める「村長選」。多くの生徒たちが勇気を出して立候補しました。

リーダー役に手を挙げた立候補者が全員の前で抱負を訴え、皆が目を閉じた状態で挙手による投票が行われ、村長が決定します。1日目は立候補できなかった生徒が、他の生徒の姿に刺激を受け、2日目には意を決して手を挙げる姿も見られました。

参加者の声

「トレセンは先生から言われて動くのではなく、自分たちから「気づき・考え・実行する」場所です。自分から何か問題を見つけ、解決することは難しかったけれど、やりがいを感じられました。一人ひとりが自分でやるという意識を持って行動することが大切なのだと知りました」

「今回のトレセンを通して、みんなで力を合わせて協力すること、そして、自分の意見をはっきり伝えることの大切さを学ぶことができました」

「最初は知らない人ばかりの中で緊張したけれど、自己紹介から始めて、昼食、VS、同部屋のメンバー同士で話したりしながら、3日間みんなと一緒に過ごしていくうちに友達

ちもたくさんできて、話したことがない相手にも自分から話しかけられるようになったことが印象に残っています」

「VS・HRなどのグループの活動の中で自分の意見を言ったり、レクや先見の時間でみんなと協力して進めることができて、短い期間の中でも成長の手応えを感じることができました」

「最初は学校と違って先生の指示がないので戸惑ったけれど、自分の意識で動くことができるようになり、先生に頼らなくなってきた、成長できたと感じています」

参加校 西橋内中学校・橋北中学校・芸濃中学校・一身田中学校・南郊中学校

掲示板

誰かの指示を受けて動くのではなく、掲示板を見て次の予定を把握して行動に移します。

加盟数

幼稚園	52
保育園	10
こども園	17
小学校	246
中学校・義務教育学校	87
高等学校	7
特別支援学校	2
合計	421

令和6年度の加盟校・園

令和6年度、加盟登録をさせていただいた学校・園は、421校・園です。加盟した数があり、それが27.2%です。本年度の小学校の加盟率は、前年度より72.2%増となりました。本年度は、前年度より加盟校が19校・園増えました。特に、こども園の加入が増えましたが、幼稚園の園児数の減少と廃園が多く、今後、園児数の少ない幼稚園でも加盟できるよう検討していきたいと考えています。

青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標に、「気づき・考え・実行する」を態度目標として学校教育の現場で活動していただいています。出前授業も行っています。本年度は、「防災」に関する「いまでも、さくさく」の講座も新たに開設いたしました。この出前授業の派遣希望があれば、ご連絡ください。本年冬には津市あつちのつちのサイエンスに新社屋が誕生する予定です。社屋前には、広大なグリーンパークがあり、多くの学校が遠足等で訪れます。新社屋を活用した講座等も検討中ですので、遠足・社会見学等ぜひご利用ください。